

授業科目名: 教科(理科)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 浅見奈緒子 担当形態: 単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・理科		
「学位授与の方針」との関係			
DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる(専門知) DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる(実践力)			
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1)「国際算数・数学、理科教育調査」などから児童の実態を把握し、小学校学習指導要領(理科)の変遷を踏まえて、改善の視点及びその特徴を説明できる。</p> <p>(2)授業において日常生活に関連した学習素材を活用し、学んだ知識を他の教科や生活に応用できるような授業展開を工夫することができる。</p> <p>(3)教科書の研究を行い、その内容、また授業を構成する要素(目標、内容、活動、評価)を理解する。</p> <p>(4)理科の学習の中で子どもたちに、理科の見方・考え方を働かせた授業をいかにして展開するかを考えることができる。</p> <p>(5)GIGAスクール構想を見据え、探究のプロセスにおけるICTツールを効果的に活用した学びを検討できる。</p>			
授業の概要			
国内外の調査(PISA調査やTIMSS調査)結果等から、児童の理科に対する意識や態度、学習の状況を把握し、様々な課題を克服するための授業の在り方や学習指導の工夫を学ぶ。 日常生活に関連した指導内容及び授業で学んだ成果を他の授業や日常生活に応用できる具体的で実践的な指導力を習得する。 教科書研究を行い、その内容を理解し、理科の見方・考え方を働かせた授業の展開、ICT等を効果的に用いた活動を検討する。			
授業計画			
<p>第1回:小学校学習指導要領(理科)の改善の視点(1)何ができるようになるか</p> <p>第2回:小学校学習指導要領(理科)の改善の視点(2)何を学ぶか</p> <p>第3回:小学校学習指導要領(理科)の改善の視点(3)どのように学ぶか</p> <p>第4回:小学校学習指導要領(理科)の改善の視点(4)その他</p> <p>第5回:学習指導要領(理科)の変遷</p> <p>第6回:学習指導要領の特色</p> <p>第7回:児童生徒の自然のとらえ方～国内外の各種調査からみた児童の実態～調査結果の考察</p> <p>第8回:主体的・対話的で深い学び</p> <p>第9回:実生活と結びつく学習の構成</p> <p>第10回:観察・実験を取り入れた授業づくり</p> <p>第11回:科学的思考・表現(理科の見方・考え方)</p> <p>第12回:理科授業の構成</p> <p>第13回:学習評価</p> <p>第14回:教科書研究</p> <p>第15回:理科の基本的な知識を日常で意識すること【科学コミュニケーション】</p> <p>科目修得試験</p>			
スクーリングでの学修			
テキスト			
左巻健男・山下芳樹・石渡正志(2018)『授業をつくる!最新小学校理科教育法～2017学習指導要領準拠～』学文社 ISBN:978-4762027727 小学校教科書(理科) 3年、4年、5年、6年			
参考書・参考資料等			
<p>文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編(平成29年告示)』東洋館出版社 <a href="https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_005_1.pdf">https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_005_1.pdf</a></p> <p>国立教育政策研究所 教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』(小学校理科)2020年 <a href="https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_rika.pdf">https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_rika.pdf</a></p> <p>滝川洋二『理科読をはじめよう～子どものふしぎ心を育てる12のカギ～』岩波書店 2019年 978-4007309489</p>			
学生に対する評価			
レポート評価(50%)、科目修得試験(50%)			